



実践団体・プラン基本情報

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

ただし「実践団体・プラン基本情報」全体で4ページ以内に収めてください。

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2026 年 1 月 11 日 (R7 年度のチャレンジプラン)
プラン名	西日本豪雨の経験を経て、地域とともに創る防災学習
実践団体名	岡山県立倉敷まきび支援学校
代表者名	金島 一顯
電話番号	086-697-1233
メールアドレス	Kazuaki_kanashima@pref.okayama.jp
実践団体の説明 団体の来歴や特徴などを書いてください	岡山県倉敷市真備町箭田地区まちづくり推進協議会もりたて班に所属する箭田地区各代表者、箭田幼稚園、箭田小学校の学校代表者と PTA、真備中学校、真備綾南高等学校、倉敷まきび支援学校の学校代表者は、毎月「もりたて班会議」を開催し、地域行事や学校行事、各学校の地域協働活動等について、情報交換をしたり、企画・運営をしたりしています。地域協働活動の一つとして各学校で取り組んでいる防災に関する学びを地域と共有し、地域と繋がって支え合っていきたいと考えて活動している。
所属メンバー お名前やご所属、役割などを差し支えない範囲で書いてください	倉敷市真備町箭田地区まちづくり推進協議会もりたて班に所属する箭田地区各代表者、箭田幼稚園長、箭田小学校長と PTA 会長、真備中学校長、真備綾南高等学校長、倉敷まきび支援学校長
活動の本拠地 団体の事務所の所在地や居住地など記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。	岡山県立倉敷まきび支援学校：岡山県倉敷市真備町箭田 4682-1 真備町箭田地区まちづくり推進協議会：岡山県倉敷市真備町箭田 1684
活動開始時期・結成時期	まちづくり推進協議会平成 12 年結成 まきび支援学校は、平成 26 年の開校から参加
過去の活動履歴・受賞歴 これまで行ってきた活動や受賞歴（チャレンジプラン以外も含む）をご記入ください	特になし



プランの基本情報

<p>プランでの実践主体</p> <p>プランを実践した人の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA、</p> <p>4. 地域組織 6. 公共施設、7. 企業・産業関係</p>
<p>プランの運営側の人数（実数）</p>	<p>約 16人</p>
<p>プランの活動地域</p> <p>今回のプランで活動をした地域を記入してください。正確な住所でなく「〇〇校区・〇〇自治会」などでも構いませんが、少なくとも「〇〇都道府県〇〇市町村」などの自治体名は入れてください。オンラインによる全国発信・世界発信などがある場合には、その旨も書いてください。</p>	<p>岡山県倉敷市真備町箭田地区</p>
<p>プランの防災教育の対象者</p> <p>防災教育の対象者の主な属性</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 乳児 2. 幼児・保育園児・幼稚園児</p> <p>3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年）</p> <p>5. 小学生（高学年） 6. 中学生 7. 高校生 8. 大学生</p> <p>9. 外国人 10. 教職員・保育士等</p> <p>11. 保護者・PTA 12. 地域住民 13. 企業・組織</p> <p>14. 女性 15. 障がい者 16. 支援学校等児童生徒</p> <p>17. 高齢者 20. 箭田地区の全ての人々</p>
<p>防災教育の対象者の人数（実数）</p>	<p>約 400人</p>
<p>プランが対象とする災害</p> <p>プランが対象とする災害</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 9. 災害全般</p>
<p>プランの活動目的</p> <p>プランの主な活動目的</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練</p> <p>3. 防災に関する知識を深める</p> <p>4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験</p> <p>6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成</p> <p>8. 防災に役立つ資料・材料づくり</p> <p>9. 防災に関する技術の習得</p>
<p>対象者が身につく知識・技能等</p> <p>プランの対象者が身につけることができる知識・技能等</p> <p>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</p>	<p>1. 地震・津波・火山災害</p> <p>2. 気象災害</p> <p>3. 災害時に発生する課題・影響</p>



<p><u>当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</u></p>	<p>4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動</p>
<p>プランの活動形態 プランの主な活動形態 <u>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。</u></p>	<p>1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 3. 講演会・シンポジウム 4. 総合的な学習（探求）の時間 10. 校外学習・移動教室 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練 16. 演劇</p>
<p>プランでの連携先 プランで連携した相手の属性 <u>複数選択可です。該当しないものを削除し該当するものを残してください。その他には具体的に記入してください。いない場合には「いない」を残してください</u></p>	<p>1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 7. それ以外の地域組織 9. 公共施設 10. 企業・産業関係</p>
<p>実践にかかった金額 チャレンジプラン予算額に関わらず実践でかかった費用の総額をご記入ください 具体的金額を記入するか、選択肢から<u>該当しないものを削除し該当するものを1つ残す</u></p>	<p style="text-align: right;">50万円未満円</p>

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	もりたて班会議		
5月	もりたて班会議		地域連携校内避難訓練
6月	もりたて班会議		
7月	もりたて班会議		校内防災研修
8月			校内防災研修
9月	もりたて班会議		地域防災研修
10月	もりたて班会議		地域防災研修、地域連携校内避難訓練
11月	もりたて班会議	防災アプリ開発会議	地域防災研修、地域連携防災訓練
12月	もりたて班会議	防災アプリ開発会議	地域防災研修
1月	もりたて班会議	防災アプリ開発会議	地域防災研修



2月	もりたて班会議		地域連携校内防災訓練
3月	もりたて班会議		



実践したプランの内容

必要に応じてセル（表の枠）の高さを調整していただいて構いません。

複数の実践についても、該当するセル内に簡潔にまとめて記載してください。写真や図表等を入れてもかまいません。ただし「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

プラン全体の概要

どのような目的のプランか、どのような方法でどのような成果が得られたのかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

西日本豪雨から7年が経過し、地域ぐるみの避難訓練や防災訓練学校ごとの避難訓練が実施され、着実な復興につながっている。昨年度は、まびふれあい公園が完成し、地域の防災拠点となっている。近年、真備地区で徹底的に行われてきた洪水や河川の氾濫に対する防災訓練だけでなく、地震や豪雨による土石流災害等の様々な防災対策が必要とされている。どのような災害がおきても、箭田地区に生活するすべての人々が安全に避難行動を取り、避難生活を送ることができるときに必要な情報ツールを活用して避難訓練を実施したり、開発したりすることを目的とする。

プランの「チャレンジ」の結果

プランにおいて「何がチャレンジ」なのか、1年間の活動でそのチャレンジがどのような結果・成果を生み出したかについて、200字～600字程度で記載してください。

写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。

・水害対応の場合に活用することを想定した個々のヘルプカードを様々な災害に対応できるヘルプカードへとバージョンアップ（Vol.2）したが、そのカードを活用し箭田地区で生活する方々がバージョンアップしたヘルプカードを携行して箭田地区地域連携防災訓練を実施することができた。（11月23日）





・ 箭田地区地域連携防災訓練での出会いをきっかけにして、特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) の開発に取り組むことができた。

実践内容・方法・成果

これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください。どのような成果が得られたのかについてもまとめてください。写真や図表を入れても構いません。

このセルの字数制限、写真・図表枚数制限はありませんが、「実践したプランの内容」全体で10ページ以内に収めてください。

実践が複数になる場合には、それぞれについてこのセル内に簡潔にまとめて記載してください。

一成果

・ 水害対応の場合に活用することを想定した個々のヘルプカードを様々な災害に対応できるヘルプカードへとバージョンアップ (Vol.2) したが、そのカードを活用し箭田地区で生活する方々がバージョンアップしたヘルプカードを携行して箭田地区地域連携防災訓練を実施することができた。

・ 箭田地区地域連携防災訓練での出会いをきっかけにして、福祉防災アドバイザーの方と一緒にアプリに含めたい機能の検討を重ね、特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) の開発に取り組むことができた。





特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) は、①教職員用、②児童生徒用、③保護者用、④スクールバス用の4つで構成されている。携帯電話の通話が難しい状況でも、アプリを通じて、それぞれの状況を情報共有することができ、どこにいるのか、今後どのように移動しようとしているのか、いつ頃お迎えに行くことができるのか等、災害時の学校・保護者・児童生徒・スクールバス等の情報管理を一元的に行うことができるアプリである。

—全体の反省・感想・課題

・最初の計画では、地域の防災計画の整理や本校の防災学習の取組等を考えていたが、どの時間帯で起こるか予測不可能の地震の脅威が迫っている昨今、登下校時、特にスクールバス乗車時の把握や対応が携帯電話で通話不可能になったときに、判断をすることすらできない状況になることがわかり、学校管理運営上、確実な状況把握の方法が必要となってきた。年度途中で、取組の優先順位を変えたことが見通しの甘さであり、反省点でもある。



	<p>—今後の継続予定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) の開発することはできた。 <p>今後、児童生徒等が自分の身を守り、自分のことを伝え、どのように活用できるか実績を重ねたり、避難訓練等で活用したりして精度を高め、全国の特別支援学校やスクールバス等を利用している学校で活用できるようにしていきたい。</p>
--	--

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

該当するものについて具体的な例を挙げながら記入をしてください。

この項目は任意項目であり、全てを埋める必要はありません。当てはまるもののみ記入してください。

<p>1. 【準備段階】<u>運営側の担当者を決める際の工夫</u></p> <p>例：役割分担を明確にした</p>	<p>・学校だけで取り組むのではなく、すでに活動している地域防災の担当の方と情報連携、活動連携しながら取り組んだ。</p>
<p>2. 【準備段階】<u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u></p> <p>例：自治会と連携をした</p>	<p>・地域でどのような防災関係行事、イベント、研修をするのか核となるもりたて班会議に毎回参加し、連携を図った。</p>
<p>3. 【準備段階】<u>運営側を組織化する際の工夫</u></p> <p>例：協議会を作った</p>	<p>・新たに組織を作るのではなく、既存の活動組織に参加し、連携を深めていった。</p>
<p>4. 【準備段階】<u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u></p> <p>例：活動範囲を限定した</p>	<p>・個別避難計画を策定する場合の行政地区（箭田地区）を参考にした。</p>
<p>5. 【準備段階】<u>準備時間を確保する際の工夫</u></p> <p>例：定例の打ち合わせを設けた</p>	<p>・毎月のもりたて班会議と防災研修で行った。</p>
<p>6. 【準備段階】<u>活動場所を確保する際の工夫</u></p> <p>例：公民館などを無料で使用した</p>	<p>・地域の二次避難場所になる公民館箭田分館を無料で使用した。</p>



<p>7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u> 例：自治体の助成金に応募した</p>	<p>・地域防災については、倉敷市等の防災関係補助も活用した。</p>
<p>8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u> 例：専門家による勉強会を開いた</p>	<p>・地域も学校も福祉防災コミュニティ協会の湯井先生を共通の講師とし、最新の知識や情報を得ながら取り組んだ。</p>
<p>9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u> 例：webサイトを引用した</p>	<p>・福祉防災コミュニティ協会のプログラム等を参考にして検討を重ねた。</p>
<p>10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u> 例：実行委員に助言を求めた</p>	<p>・平成30年の西日本豪雨のときから支援に携わってくださっている福祉防災コミュニティ協会の湯井先生に継続的に助言をいただいている。</p>
<p>11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u> 例：行政・自治会等と共催した</p>	<p>・箭田地区のもりたて班会議に所属し、地域の棒材行事に参加したり、学校の防災行事に参加していただいたりした。</p>
<p>12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u> 例：総合学習の時間に実施した</p>	<p>・土日に開催されることが多い地域防災行事には管理職が参加した。 ・西日本豪雨のあった7月は、必ず防災学習に取り組むことに学校として決めている。</p>
<p>13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u> 例：必要物品を消防署から借りた</p>	<p>・地域や防災公園等が所有している物品を借りている。</p>
<p>14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u> 例：中間報告会でプログラムを紹介してもらい共有した</p>	<p>・県内の昨年度のチャレンジプランの参加団体と連携したかったが、大学生の団体だったので、単年活動計画で連携できにくかった。</p>
<p>15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u> 例：若手を入れた</p>	<p>・学校として防災に取り組む意義を再認識し、毎年取り組むこととしている。</p>



<p>16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u></p> <p>例：引き継ぎ書を作った</p>	<p>・特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) については、県内だけでなく、7月に中国四国地区の支援学校に発表していきたい。</p>
<p>17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u></p> <p>例：web サイトで発信した</p>	<p>・特別支援学校の防災教育実践発表時に、防災対応アプリ (evac-navi) について具体的な活用例等も含めて説明していきたい。</p>
<p>18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u></p> <p>例：振り返りの会を開催した</p>	<p>・全国特別支援学校校長会の防災対策・危機管理部会で登下校時の安全把握（スクールバスを含む）が最大の課題とすることを共有でき、目的を見直して取り組んだ。</p>

<p>今後の活動予定・今後の展開</p> <p><u>今後の活動予定や、このプランの今後の展開について、200字～600字程度で記載してください。</u></p> <p>写真や図表を入れても構いませんが（文字数には含みません）、特徴的なもの2～3枚程度にしてください。</p>	<p>・特別支援学校防災対応アプリ (evac-navi) については、児童生徒等が活用できるか実績を重ねたり、避難訓練等で活用したりして精度を高め、全国の特別支援学校やスクールバス等を利用している学校で活用できるようにしていきたい。</p>
--	---

この項目は任意項目です。当てはまるものがあれば記入してください。

<p>その他（PRポイントなど）</p> <p>これまでのセルで書けなかった内容などについてもしあれば記載してください。</p>	
--	--

チャレンジプランを実践しての感想・実行委員会等へのご意見

この項目は審査対象になりません。

任意項目ですので、当てはまるものがあれば記入してください。



チャレンジプランを実践しての感想・想い

チャレンジプランを実践して、どのような感想・想いがありますか。率直なお気持ちなどを教えてください。

・全校の特別支援学校校長会の5つの経営課題別研究会の一つが「危機管理・防災教育（施設管理）」であることから、喫緊の課題であるとすべての管理職が認識している内容について取り組む機会を与えていただき感謝しております。どの時間帯で起こるか予測不可能の地震の脅威が迫っている昨今、登下校時、特にスクールバス乗車時の把握や対応が携帯電話で通話不可能になったときに、混乱をきたすことが6月にわかり、すぐに校内研修を進めてきました。災害時にも使えるIP電話等がない本県の場合にどうすればよいのか、県の対応者に相談しても対応策がないまま苦慮していたところ、箭田地区地域連携防災訓練での出会いをきっかけにして、特別支援学校防災対応アプリ（evacnavi）の開発に取り組むことができたことは幸運だったと思います。子どもたちの安全安心を支えるアプリにしていきたいと思っています。